

団体名			事業名	交付予定額 （千円）	融資予定額 （千円）	金融機関	事業背景	事業概要	地域への貢献
1	北海道	登別市	公共施設の利活用によるウイスキー蒸留所設立事業	40,000 国費：26,666 地方費：13,334	80,000	北洋銀行	●登別市は、年間320万人を超える観光客が訪れるものの、その多くは温泉街エリアに集中しており、登別駅前エリアへの周遊はほとんどない。 ●観光による経済効果が地域全体へ十分に波及していないことから、駅前エリアへの回遊を創出し、経済効果や活力を波及させる必要がある。 ●供用廃止された公共施設が遊休化しており、民間のノウハウを活用した新たな利活用が求められている。	●供用廃止された公共施設をリノベーションして、ジャパニーズウイスキーの蒸留と観光交流事業を行う。 ●超軟水と登別産ミズナラ材を使用した熟成樽により、独自性の高い高品質なウイスキーを製造するとともに、追熟用ウッドスティックの商品化・販売や登別ブランド推奨品とのフードペアリングの提案・販売を行う。 ●工場見学ツアーや試飲ブースの設置、限定商品の物販等を実施し、観光客の新たな滞留拠点として駅前エリアへの回遊を生み出す。	●観光客を駅前エリアへ誘導・周遊させることで、駅前商店街をはじめとする周辺地域への波及効果と新規消費を創出。 ●民間主導の収益施設へと転換し、地域事業者との連携体制を構築、地域内経済循環を創出する。 ●ウイスキーや工場見学ツアー等をふるさと納税の返礼品として活用し、市の寄附額増加や地域PRに寄与する。
2	北海道	増毛町	増毛レトロまちなか交流空間創出事業	30,000 国費：22,500 地方費：7,500	30,000	留萌信用金庫	●増毛町の中心市街地には、歴史的建造物群やレトロな街並みなど観光資源が集積している一方、来訪者が飲食や買い物できる場所が少なく、地域への経済効果が限定的。 ●町内に道の駅がなく、町内で開発された商品や地域産品を集約し、継続的な情報発信や販売を行う常設拠点が無い。 ●町民にとっても、日常的に立ち寄れる交流の場が不足しており、中心市街地の賑わい創出の強化が求められている。	●中心市街地のレトロな街並みの中に、カフェ、物販、観光案内、交流機能を備えた複合観光拠点の整備・運営を行う。 ●地元食材を活用した食事、スイーツ、飲料を提供するとともに、地場産品や土産品を販売し、来訪者の滞在時間と消費拡大を図る。 ●観光案内や交流イベント等も行い、回遊性の向上と賑わい創出につなげる。	●複合拠点の整備により、滞在時間と消費拡大が図られる。 ●地元食材や地場産品の活用・販売による産業振興、地域経済循環の創出 ●中心市街地の活性化、交流人口の拡大
3	北海道	陸別町	エゾシカ解体場を核とした陸別エゾシカ循環モデル構築事業～獣害対策×体験型観光でつくる持続可能な地域産業～	30,000 国費：22,500 地方費：7,500	30,000	帯広信用金庫	●広大な森林・農地を有する陸別町は、農林業が基幹産業であるが、近年はエゾシカの生息数増加に伴い、農作物被害や造林木の食害が大きな問題となっている。 ●捕獲従事者の高齢化や担い手不足により、有害鳥獣対策の実施体制の維持が難しくなっている。	●エゾシカの解体・加工・出荷を一体的に行う解体処理施設の整備・運営を行う。 ●精肉販売に加え、狩猟見学・簡易解体体験メニューを造成し、観光協会や旅行会社と連携して都市部の若年層、アウトドア・食・環境教育ニーズの高い層に販売する。 ●地元猟友会や農家と連携した研修・インターン、兼業ハンター受入れを実施し、移住希望者も含め、捕獲・解体・ガイド人材の育成を行う。	●有害獣の駆除による農業被害軽減と森林保全を図るとともに、地域の特産品としてのシカ肉 販売により地域外の外貨獲得を図る。 ●捕獲従事者の稼げる環境を 整備するとともに、研修等の 実施により担い手不足の解消を図る。
4	青森県	中泊町	「ただいま」と帰ってくる観光地づくりー 津軽鉄道終着駅裏を起点とした食と滞在の観光拠点整備事業ー	7,000 国費：5,250 地方費：1,750	7,000	青森みちのく銀行	●中泊町は、農業を基幹とする中里地区と、漁業を基幹とする小泊地区が飛び地合併した町であり、点在する観光資源の 情報発信や案内機能が十分でなく、町内回遊が生まれにくい。 ●津軽中里駅周辺では、観光客が飲食・休憩・宿泊・土産購入を行える場が不足しており、来訪者の滞在時間の増加や地域内消費の拡大につながりにくい。	●古民家を滞在型観光交流拠点へと再生し、飲食・物販・民泊事業を行う。 ●地域事業者や観光協会と連携し、地元農水産物や加工品を活用した料理や地酒の提供、特産品の販売、町のイベントや観光情報を発信する。 ●地域おこし協力隊の活動拠点として、移住体験ツアーや地域案内、移住希望者と町民との交流イベント等を実施。	●町内産食材・地域商品の販売機会を創出し、地域事業者の売上拡大に寄与。 ●飲食・物販・宿泊を一体的に提供し、滞在時間の延長、地域内消費の拡大を図る。 ●地域おこし協力隊と連携した移住・定住促進
5	千葉県	勝浦市	勝浦産黒アワビの資源循環・高付加価値化に向けたアワビ陸上養殖事業	14,768 国費：9,845 地方費：4,923	14,768	千葉銀行	●勝浦市の水産業は、水産資源の減少や収益低下といった課題がある。とりわけ、アワビの漁獲量は著しく減少（県全体で1960年代800トン程度→近年100トン未満）しており、「つくり育てる漁業」の推進による資源回復と持続可能な水産業への転換が重要な課題。 ●若年層の流出と高齢化が進行しており、就業促進を通じた定住促進に向けて、水産業振興による安定的な収益確保が求められている。	●黒アワビの陸上養殖施設を整備し、種苗生産から養殖、販売までを地域内で一貫して行う循環型の養殖事業を立ち上げる。 ●勝浦産黒アワビを親貝とした稚貝生産や成貝養殖を行い、「勝浦産養殖黒アワビ」としてブランド化し、全国の養殖事業者や飲食店・ホテル等に販売する。 ●加えて、地域イベント等での一般販売やふるさと納税返礼品として活用するほか、稚貝放流により水産資源の回復へ貢献し、持続可能な生産体制を構築する。	●地元漁業協同組合と連携し、地域内で種苗生産機能を確保することで、水産資源の回復と安定供給を図る。 ●ブランド化・高付加価値化による収益確保・水産業振興 ●雇用創出や人材育成、安定的な収益確保により、若年層の定住促進を図る。

地域経済循環創造事業交付金（ローカル10,000プロジェクト） 交付決定事業一覧（令和8年度第6回交付決定）									
団体名			事業名	交付予定額 （千円）	融資予定額 （千円）	金融機関	事業背景	事業概要	地域への貢献
6	大阪府	藤井寺市	完全無投薬・閉鎖循環式うなぎ養殖による「美陵鰻」ブランド6次産業化事業	20,000 国費：10,000 地方費：10,000	20,000	池田泉州銀行	●藤井寺市では、安心・安全な国産養殖うなぎの需要が年々高まる中、市内事業者による養殖うなぎの生産が行われている。 ●しかし、加工・販売は市外で行われているため、地域資源から生み出される付加価値が域外へ流出しており、域内での付加価値の還流が課題となっている。 ●地域の消費・観光需要の低迷が課題となる中、付加価値の創出によるブランド力強化が求められている。	●養殖から加工・販売までを一体的に行える施設を整備し、養殖うなぎの6次産業化事業を行う。 ●年間を通じて水温・水質を安定管理できる閉鎖循環式養殖による生産体制を構築し、地域特産品であるイチジクの規格外品を飼料にして、地域ブランドを確立する。 ●市内の飲食店向けに活鰻の卸販売を行うとともに、ECサイトやふるさと納税返礼品を通じて個人向けに加工品の販売を行う。	●藤井寺市発の高付加価値ブランドとして確立させ、地域のPR。 ●市内飲食店との連携による地域経済活性化、ECサイト販売、ふるさと納税返礼品として全国展開による地域外からの外貨獲得
7	山口県	長門市	旧酒蔵を活用したアート複合施設による地域振興モデル事業	5,000 国費：3,333 地方費：1,667	5,000	日本政策金融公庫	●長門市は、豊かな自然景観や歴史的建造物などの観光資源を有しているが、スポット型・通過型観光が中心であり、滞在時間の増加と消費拡大が課題となっている。 ●長門ゆずきち、フルーツマト、仙崎かまぼこなどの地域産品を有するが、直売所での販売による消費が中心となっており、産品の魅力を体験し、継続的な購買を促す拠点が不足している。	●約130年の歴史を有する旧酒蔵を芸術文化複合拠点へとリノベーションし、飲食、物販、企画展示・交流事業を行う。 ●長門ゆずきちをはじめとした地元食材や地域特産品を活用した飲食物の提供、物販、地域の食文化体験、アート制作ワークショップなどを実施する。 ●現代アートの常設展示やアーティストの創作過程を間近で見学できる公開制作等のイベントを開催し、多様な世代の誘客を促進するとともに、滞在時間の延長へつなげる。	●拠点整備、体験メニューの提供による滞在時間の増加、ほかの観光資源との周遊観光による消費拡大 ●地元食材と地域特産品の活用による生産者等の売上増加、産業振興 ●歴史的建造物の保存・活用、地域の食文化体験による地域の歴史文化の継承
8	熊本県	天草市	天草産イチジクと薬草を活用した「リカバリースピリッツ」製造販売及び地域循環創造事業	30,000 国費：20,000 地方費：10,000	34,670	熊本銀行 日本政策金融公庫	●天草市では、過疎化・高齢化の進行に伴う農地の荒廃により、病害虫や有害鳥獣の被害拡大が深刻な課題。 ●ウェルビーイング（心身の健康）のニーズが高まる中、古来に疫病を救った薬草を「天の草」と呼んだことに由来する天草の地で本事業を構想。法人代表者は令和8年に移住し、地域に根ざした経営体制を構築中。	●蒸留所を整備し、天草産クラフトジンの製造販売事業を行う。 ●原料には、天草発祥とされるイチジク（無花果）、生薬、柑橘、超軟水の倉岳山の湧水を使用し、地域資源の高付加価値化とブランド化を目指す。 ●店舗販売に加え、ECサイトでの直接販売、都内百貨店への展開や海外輸出も行い、地域のPR、関係人口の拡大を図る。	●イチジクや生薬の活用・生産拡大による農業振興、地域経済の活性化 ●病害虫や有害鳥獣対策の行政コストの低減 ●地元特産品の開発による地域のPR、関係人口の拡大
9	鹿児島県	鹿屋市	地元生産食材を活用した地域密着型カフェ及び多目的ホール新設による地域コミュニティ活性化のための事業	20,900 国費：13,933 地方費：6,967	25,700	鹿児島興業信用組合 日本政策金融公庫	●鹿屋市では、急速に進む人口減少・少子高齢化により、地域のつながりの希薄化を招くとともに、高齢者の孤立化が深刻化し、心身の健康悪化につながるケースが増加。 ●世代を超えた交流機会が減少し、地域活動への参加者や担い手の減少を招くなど、地域全体の活力低下につながっている。 ●全国トップクラスの農業産出額を誇る市の農業においても、担い手不足や耕作放棄地が増加している。	●住民等が日常的に訪れるカフェ併設の多目的ホールの整備・運営を行う。 ●カフェでは、市内福祉事業所等と連携して、地元農産品を使った健康メニューやグルテンフリーの米粉パン等を提供し、住民や来訪者の健康寿命の延伸を図る。 ●多目的ホールでは、マルシェや地元食材をPRするイベントも開催するほか、カフェと一体的に運用することにより、多様な世代の交流を促進する。	●コミュニティが創出され、高齢者の孤立化の防止、地域のつながり強化が図られる。 ●農業生産者や障がいのある方が作った野菜や果物を使用し、農業振興や誰もが活躍できる場を創出。